

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	H29年自己評価		
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット・事業者内に掲示し職員は業務やケアの中でも理念を意識しながらサービスが提供できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方をホームに招いたり地域の催し物に参加しホームでの行事にも地域の方を招待している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の実習を受け入れ利用者さんと交流を図ったり他の施設の研修生や歯科衛生士の方にも実習に来ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広報を作成し施設から日々の活動や様子を報告し意見や情報提供を頂きサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町会長・包括支援センターにも来ていただきホームの状況等を報告している。現状や今後の対応など話し合いを持ち情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い、利用者の安全を重視したうえで身体拘束にならないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩として尊敬し言葉遣いや声掛けの仕方、虐待の具体的な行為などスタッフ全員気を付け配慮するとともに虐待の研修を行い情報を共有している。		

自己	外部	項目	H29年自己評価	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修が行われておらず、活用されていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際はご利用者様やご家族にお話を聞き不安や疑問などは何度も話し合いを重ね、納得をされるまで十分な説明を行っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に関き、たくさんのご家族様の参加を募りご家族様から要望や意見を伺い話し合う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各フロアの朝・夕の申し送りやユニット会議また連絡会で出た意見や問題点についてスタッフとともに話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とスタッフの個人面談は実施され就業環境についての意見を聞いている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・スタッフは法人内外の研修・講習に参加し、日々のケアや対応に生かしていくよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームスタッフとも情報交換をしたり交流を図り互いに参考にできることがあれば取り入れ、向上に努める。	

自己	外部	項目	H29年自己評価	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限りご利用者様に寄り添い、傾聴し、信頼していただけるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の大切なご家族をお預かりしていることを念頭に置き、誠意のある態度、言動に心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ全員が情報を共有把握し、管理者がご家族様と連絡をまめにとることで必要とする支援を見極め、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのご利用者様の出来ること得意なことを生かし、お手伝いしていただきながら共同生活を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の誕生日、敬老会、クリスマスなど行事の前にはお知らせし一緒にお祝いする場を設け、また月に1度近況を報告するお手紙を書いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの行きつけの美容室や理髪店、友人宅の訪問など定期的に訪ねる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者様同士の様子も観察し状況に応じて座席の配置換えをしたり、スタッフがさりげなく介入したりしてご利用者様同士も和やかに過ごせるよう努めている。	

自己	外部	項目	H29年自己評価		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型の施設なのでご家族との出会いがあれば挨拶し近況をうかがう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん一人ひとりの尊厳を守り、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんのこれまでの生活環境・病歴・サービスの利用歴などを把握することで入所前の生活が継続したものになるよう支援していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体状態をさりげなく観察し体調不良の要因が重ならないようにスタッフ間で申し送りをして情報共有しながら体力維持に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんのペースで好きなように過ごしていただけるよう担当スタッフを決め、担当を中心にケア会議を通じてスタッフ全員が情報を共有し介護計画を立てる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌に本人の日々の様子やケアの内容を記入し申し送りをしてケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設が行うレクリエーションや各種行事の多様性に努めると共に、一人ひとりの意向を尊重し、居心地の良い暮らしを支援していく。		

自己	外部	項目	H29年自己評価	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に、敬老会の太鼓パフォーマンスやBBQの時など声をかけたり、町内のイベントに利用者さんが参加している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医院と連絡をととも密にとりその時々利用者の状況容態を診断し、本人や家族の希望を重視してその時の状態にあった病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方に週2回来ていただき、利用者さんの様子、気になることを相談して、診ていただき適切な対応を心掛けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には可能な限り面会し家族や医師や病院関係者とよく話し合い利用者が出来るだけ早く退院出来るよういろいろと働きかける。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中、本人・家族・医師と連絡を常に取合いながら利用者や家族の意向に沿った支援が出来るよう話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を繰り返しマニュアルをわかりやすい場所に貼っている。	
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時や食中毒などの対応の研修も行っている。行方不明等の連絡体制や捜索時の利用者のファイルを作っている。	

自己	外部	項目	H29年自己評価	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関は決められており24時間体制で支援が確保できている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時、施設長へ報告し指示または主治医から指示いただく。緊急時の連絡網を作成している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。地域の消防署の協力を得ながら訓練を行っている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	年2回防災訓練を実施している。利用者の安全確保のため消防署の協力を得て指導を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者に声掛けや対応するように心がけている。定期的に勉強会も行っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や仕草、積極的なコミュニケーションをし、ご本人の希望や思いを聞き自己決定できるようにしている。	
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりがかつ生活リズムを崩すことなく暮らせるように支援している。	

自己	外部	項目	H29年自己評価	
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	下着、洋服は毎朝替え個人に合った洋服を自分で選び清潔な服を着ていただく。又安全に気を付け、たけの合ったズボン等を着ていただくようにしている。	
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は利用者さまと行き食材選びから行う。手作りの日は利用者様と一緒に調理する。又、誤嚥等しないように細かく刻んだりトロミ食ソフト食を工夫している。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方には水分チェック表をつけたり塩分制限のある方には塩分抜きを行っている。各自に応じてソフト食トロミ食キザミ食を提供している。	
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで毎食後口腔ケアを行い、一人ひとり舌みがきの声掛けを行っている。又、どうしても無理な利用者様には口腔清潔ウェットシートを使用しスタッフが舌苔の除去を行っている。	
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ声掛け誘導し転倒等ないように声掛けを工夫している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけスタッフは一人ひとりの利用者さんの排便を把握しその人に合った便秘薬を主治医より処方していただいている。又、体操を毎日行い身体を動かしていただいている。便秘にならないようおやつ等工夫し食べていただいている。	
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者さん一人ひとりのペースに合った入浴をしていただき「入りたくない」と言われる利用者さんには散歩など出かけ気分転換し入浴していただくようお声掛けしている。	

自己	外部	項目	H29年自己評価	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さん個人個人に合った安心して休まれるように支援して行えるようにする。	
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人服薬する薬がちがうので内服をまちがえないように支援に努めている。	
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活リズムがちがうのでその人に合った支援をしていくように努める。	
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人一人に合った外気翌やドライブなどその人らしい生活が出来るように支援してくようにする。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりが希望に応じたお金を持っていただきスタッフと一緒に買い物を使えるように支援している。	
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から電話等があった時はスタッフが声掛けて本人に出ていただき話してもらうように支援している。	
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの部屋を清潔にし共同生活が快適に過ごせるように支援して工夫をしている。	

自己	外部	項目	H29年自己評価	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さん同士が談笑できるよう席の配置を考えたり一人でもくつろげるようホールにはソファやベランダにはベンチを置き自由に居場所を選んで過ごせるように配慮している。	
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や家族との思い出の品、愛着のある物などを配置しご自宅と同じ環境で過ごしていただけるよう配慮し心地良い空間となるように工夫している。	
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や自席のテーブルには名前がそれぞれ書いてあり目で見て確認できるようになっている。手すりの位置、危険と予測されるものの排除など安全に自立した生活ができるように環境作りを心がけている。	